

# 決心変えず「尊厳死」

## 「思い通り死にたい」 家族の腕の中 穏やかに…



「尊厳死」を宣言していた米女性リタニー・メイナードさん。支援団体「コンパッション・デッド・チョイス」提供。2013年撮影（A.P.時事）

【ロサンゼルス共同】脳腫瘍で余命わずかと言われ、「尊厳死」を宣言していた米西部オレゴン州の女性リタニー・メイナードさん(89)が、告通し1日、自宅で医師から処方された薬を服用し死した。米メディアが2日報じた。

### 米女性、自宅で服薬

【ロサンゼルス共同】脳腫瘍で余命わずかと言われ、「尊厳死」を宣言していた米西部オレゴン州の女性リタニー・メイナードさん(89)が、告通し1日、自宅で医師から処方された薬を服用し死した。

日、自宅で医師から処方された薬を服用し死亡した。米メディアが2日報じた。メイナードさんが活動を支持していた尊厳死を推進するグループのスポークスマンは、メイナードさんが自宅の寝室で、家族が愛する人たちの腕の中で穏やかに亡くなったと述べた。10月に動画サイト「ユーチューブ」で公開されたメイナードさんの映像は、900万回以上のアクセスを記録。英紙「デイリー・テレグラフ」など各国メディアもメイナードさんの死を詳報するなど大きな反響があった。

メイナードさんは亡くなる当日、交流サイト、フェイスブックのページに「愛する家族、友だちよ。もう一度、世界は美しい。旅はいつも私の最良の教師だった。ありがとう。教育の修士号を持つメイナードさんは、ハーバードの孤児院で勉強を教えるなど、世

界中を精神的に旅していた。メイナードさんは1月に脳腫瘍と診断され、4月に余命半年と宣告された。それまで住んでいたカリフォルニア州から、死を望む未期患者に医師が薬剤を処方することが認められている。オレゴン州に夫婦が転居。11月、自宅で尊厳死を実行すると公表し、国内外で「死の権利」をめぐる議論を巻き起こした。

オレゴン州では1997年、米国で初めて法的に尊厳死が可能になった。現在オレゴン州、ワシントン州、モンタナ州など計5州で同様の措置が認められている。A.P.通信によると、オレゴン州では昨年未だに750人以上が合法的に尊厳死しており、多くは高齢者で35歳未満は6人だけだった。

日本は別次元殺人罪適用も  
「尊厳死」すると宣告していた米国の女性、リタニー・メイナードさんが、医師から処方された薬剤を服用して亡くなった。日本では患者の意思に基づき延命治療を施さないケースはあるが、今回のようなケースは別次元の問題として捉えられており、患者を死なせる目的で医師が薬剤を投与したり、処方したりすると殺人や自殺ほう助罪に問われる恐れがある。神奈川県立の東海大病院で1991年、医師が末期がん患者に塩化カリウムなどを注射して死なせた「東海大安楽死事件」では、医師が殺人罪で起訴され、95年に執行猶予付きの有罪判決が確定した。横浜地裁判決は「耐え難い肉体的苦痛がある」死期が迫っている「な」医師による「安楽死」が認められる4要件を示し、議論を呼んだ。98年に起きた川崎協同病院事件では、患者の気管内チューブを抜き、筋弛緩剤を投与した医師が殺人罪に問われ、09年に最高裁で有罪が確定している。

厚生労働省は07年に終末期医療の指針を策定したが、「肉体的苦痛を緩和する重要性を強調し、緩和ケアを充実させることが何よりも必要」との立場から、医師が薬剤の投与などで患者の余命を短縮させる行為を指針の対象外とした。

「安楽死 欧州で合法化も」  
【ロサンゼルス共同】「思い通りに死にたい」と「尊厳死」を主張し、1日に死亡したリタニー・メイナードさんをめぐり、米国で「死の権利」についての議論が起きた。世界を巡る、医師が「苦痛のない方法」で死なせる行為の合法化を支持しているという。欧州では、患者の意思により医師が薬物などで死に導く安楽死の合法化が徐々に広がっている。オランダは2001年に世界で初めて安楽死を合法化、ベルギーが02年に続いた。フランスも05年に安楽死を認める法律を制定した。スイスでは医師が薬物を処方、死を選んだ患者自身が使用する「自殺ほう助」が定着。英国では患者の意思で延命装置を停止することが認められている。ポーランドやドイツでは合法化されていない。

「尊厳死」を宣言していた米女性リタニー・メイナードさん。支援団体「コンパッション・デッド・チョイス」提供。2013年撮影（A.P.時事）